

資料 1

平成 30 年 1 月 30 日

東京都環境影響評価審議会  
会長 柳 憲一郎 殿

東京都環境影響評価審議会  
第一部会長 町田 信夫

「(仮称) 西日暮里駅前地区第一種市街地再開発事業」環境影響評価調査計画書  
について

このことについて、当部会において調査、審議した結果は別紙のとおりです。

## 「(仮称)西日暮里駅前地区第一種市街地再開発事業」に係る 環境影響評価調査計画書について

### 第1 審議経過

本審議会では、平成29年11月20日に「(仮称)西日暮里駅前地区第一種市街地再開発事業」に係る環境影響評価調査計画書(以下「調査計画書」という。)について諮問されて以降、部会における審議を行い、都民及び周知地域区長の意見等を勘案して、その内容について検討した。

その審議経過は付表のとおりである。

### 第2 審議結果

#### 【騒音・振動】

建設機械の稼働に伴う建設作業の騒音・振動の予測において、予測の対象時点を建設機械の稼働による影響が最大となる時点としているが、本事業では既存建物の解体工事が行われることから、解体工事及び建設工事に伴う影響が最大となる時点について、それぞれ予測・評価すること。

#### 【景観】

代表的な眺望地点において、不特定多数の人の利用度等が高い場所等として10地点を選定しているが、計画地北側にも住宅や公園等が多く存在することから、計画地北側の近景域又は中景域において調査地点を追加するとともに、計画建築物による眺望の変化の程度について予測・評価すること。

### 第3 その他

環境影響評価の項目及び調査等の手法を選定するに当たっては、条例第47条第1項の規定に基づき、調査計画書に係る都民及び周知地域区長の意見並びに今後の事業計画の具体化を踏まえて検討すること。

なお、選定した環境影響評価の項目のほか、事業計画の具体化に伴い、新たに調査等が必要となる環境影響評価の項目が生じた場合には、環境影響評価書案において対応すること。

## 【審議経過】

区 分	年 月 日	審 議 事 項
審議会	平成29年11月20日	・調査計画書について諮問
部 会	平成30年1月23日	・環境影響評価の項目選定及び項目別審議 (大気汚染、騒音・振動、土壌汚染、地盤、 水循環、日影、電波障害、風環境、景観、 廃棄物、温室効果ガス)  ・総括審議
審議会	平成30年1月30日	・答申

資料 2

平成 30 年 1 月 30 日

東京都環境影響評価審議会  
会長 柳 憲一郎 殿

東京都環境影響評価審議会  
第二部会長 平手 小太郎

「(仮称) 泉岳寺周辺地区市街地再開発事業」環境影響評価調査計画書  
について

このことについて、当部会において調査、審議した結果は別紙のとおりです。

## 「(仮称) 泉岳寺周辺地区市街地再開発事業」に係る 環境影響評価調査計画書について

### 第1 審議経過

本審議会では、平成29年11月21日に「(仮称) 泉岳寺周辺地区市街地再開発事業」に係る環境影響評価調査計画書（以下「調査計画書」という。）について諮問されて以降、部会における審議を行い、都民及び周知地域区長の意見等を勘案して、その内容について検討した。

その審議経過は付表のとおりである。

### 第2 審議結果

#### 【騒音・振動】

建設機械の稼働に伴う建設作業の騒音・振動の予測において、予測の対象時点を建設機械の稼働による影響が最大となる時点としているが、本事業では既存建物の解体工事が行われることから、解体工事及び建設工事に伴う影響が最大となる時点について、それぞれ予測・評価すること。

### 第3 その他

環境影響評価の項目及び調査等の手法を選定するに当たっては、条例第47条第1項の規定に基づき、調査計画書に係る都民及び周知地域区長の意見並びに今後の事業計画の具体化を踏まえて検討すること。

なお、選定した環境影響評価の項目のほか、事業計画の具体化に伴い、新たに調査等が必要となる環境影響評価の項目が生じた場合には、環境影響評価書案において対応すること。

## 【審議経過】

区 分	年 月 日	審 議 事 項
審議会	平成29年 11月 21日	・ 調査計画書について諮問
部 会	平成30年 1月 25日	・ 環境影響評価の項目選定及び項目別審議 （大気汚染、騒音・振動、土壌汚染、地盤、 水循環、日影、電波障害、風環境、景観、 史跡・文化財、自然との触れ合い活動の場、 廃棄物、温室効果ガス）  ・ 総括審議
審議会	平成30年 1月 30日	・ 答申

資料 3

平成 30 年 1 月 30 日

東京都環境影響評価審議会  
会長 柳 憲一郎 殿

東京都環境影響評価審議会  
第二部会長 平手 小太郎

「東京都市計画道路幹線街路環状第 4 号線（港区港南一丁目～  
同区白金台三丁目間）建設事業」特例環境配慮書について

このことについて、当部会において調査、審議した結果は別紙のとおりです。

「東京都市計画道路幹線街路環状第4号線（港区港南一丁目～同区白金台三丁目間）建設事業」に係る特例環境配慮書について

## 第1 審議経過

本審議会では、平成29年3月28日に「東京都市計画道路幹線街路環状第4号線（港区港南一丁目～同区白金台三丁目間）建設事業」特例環境配慮書（以下「配慮書」という。）について諮問されて以降、部会における審議を重ね、配慮書において示された複数の対象計画案について提出された都民の意見及び関係地域区長の意見等を勘案して、その内容について検討した。

その審議経過は付表のとおりである。

## 第2 審議結果

本事業の配慮書における調査、予測及び評価は、おおむね「東京都環境影響評価技術指針」に従って行われ、その記載内容は事業段階環境影響評価における環境影響評価書案に相当するものと認められる。

なお、環境影響評価書を作成するに当たっては、次に指摘する事項について留意するとともに、関係住民が一層理解しやすいものとなるよう努めるべきである。

### 【騒音・振動】

自動車の走行に伴う道路交通騒音レベルは、評価の指標とした環境基準と同値又はわずかに下回る程度であり、また、計画道路に近接して幼稚園などの教育施設が存在し、本事業による影響が懸念されていることから、環境保全のための措置を徹底するとともに、より一層の環境保全のための措置について検討すること。

### 【景観】

橋梁構造区間においては、「品川駅・新駅周辺景観形成特別地区」に指定されており、また、地域住民からも景観への影響の懸念も示されていることから、今後、



詳細なデザインや色彩等を決定するに当たっては、専門家等の意見を反映するよう努めること。

**【廃棄物】**

工事の施行に伴う建設廃棄物等の予測において、区間別に排出量、再資源化量等を推計しているが、高輪・港南区間においては、複数の道路構造となっていることから、道路構造別に排出量、再資源化量等を推計し、環境影響の程度について評価すること。

## 【審議経過】

区 分	年 月 日	審 議 事 項
審議会	平成 29 年 3 月 28 日	・ 配慮書について諮問
部 会	平成 29 年 9 月 20 日	・ 審議（事業者からの説明）
審議会	平成 29 年 10 月 26 日	・ 現地視察
部 会	平成 29 年 11 月 20 日	・ 項目別審議 土壌汚染、地形・地質、史跡・文化財
部 会	平成 29 年 12 月 18 日	・ 項目別審議 大気汚染、生物・生態系、電波障害、廃棄物
部 会	平成 30 年 1 月 25 日	・ 項目別審議 騒音・振動、日影、景観 ・ 総括審議
審議会	平成 30 年 1 月 30 日	・ 答申

※都民の意見を聴く会は、都民からの公述の申し出がなかったため開催されなかった。

## 受 理 報 告

区 分	対 象 事 業 名 称	受 理 年 月 日
1 事後調査報告書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業廃棄物（埋設廃棄物等）処理施設建設事業 （工事の施行中その2）</li> <li>・（仮称）立川立飛商業施設計画（工事の完了後）</li> <li>・東京都市計画道路環状第8号線（練馬区南田中 ～高松間）建設事業（工事の完了後その2）</li> <li>・（仮称）八王子高尾商業施設計画（工事の施行中）</li> <li>・豊洲新市場建設事業（工事の施行中その5）</li> </ul>	(別紙のとおり)
2 変 更 届	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮称）四谷駅前地区市街地再開発事業</li> <li>・都営桐ヶ丘団地（第4期・第5期）建替事業</li> </ul>	(別紙のとおり)
3 そ の 他 (条例第90条に基づく報告等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市高速道路外郭環状線（世田谷区宇奈根～練 馬区大泉町間）事業</li> </ul>	(別紙のとおり)

## 事後調査報告書

事 項	内 容																																																																
事業名	産業廃棄物（埋設廃棄物等）処理施設建設事業																																																																
番号・答申日・受理日	1-290-2	H27. 2. 3	H29. 12. 19																																																														
事業の種類	廃棄物処理施設の設置																																																																
規 模	位 置：大田区城南島三丁目1番5 敷 地 面 積：8,947.17 m <sup>2</sup> 建 築 面 積：4,040.34 m <sup>2</sup> 延 床 面 積：5,432.22 m <sup>2</sup> 施 設 用 途：産業廃棄物（埋設廃棄物等）の処理及び汚染土壌の処理 工 事 期 間：平成27年11月～平成29年5月 供 用 開 始：平成29年6月																																																																
事後調査の区分	工事の施行中その2																																																																
調査項目・事項	地盤、水循環、廃棄物																																																																
調査結果の内容	<b>1 地盤（地下水の水位及び流況の変化の程度）</b> 計画地内の観測井戸における地下水位は、調査期間を通して安定的に推移し、著しい水位の低下は認められなかったことから、地下水の変化に伴う地盤沈下の程度は小さかったと考えられる。																																																																
	<b>2 水循環（地下水の水位及び流況の変化の程度）</b> 計画地内の観測井戸における地下水位は、調査期間を通して安定的に推移し、著しい水位の低下は認められなかったことから、地下水の水位及び流況の変化の程度は小さかったと考えられる。																																																																
	<b>3 廃棄物</b> <b>(1) 掘削工事等に伴う建設発生土及び建設汚泥の発生量</b> 予測時に想定していなかった地中埋設物を掘削除去し、埋戻しには新たに流動化処理土を用いたため、予測結果を上回った。																																																																
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>発生量 (t)</th> <th>再利用率 再資源化率</th> <th>今回発生量 (t)</th> <th>累計 (t)</th> <th>再利用率 再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設発生土</td> <td>17,850</td> <td>92%</td> <td>1,278</td> <td>42,633</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>建設汚泥</td> <td>3,336</td> <td>90%</td> <td>-</td> <td>2,856</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>			種 類	予測結果		事後調査結果			発生量 (t)	再利用率 再資源化率	今回発生量 (t)	累計 (t)	再利用率 再資源化率	建設発生土	17,850	92%	1,278	42,633	100%	建設汚泥	3,336	90%	-	2,856	100%																																							
	種 類	予測結果			事後調査結果																																																												
		発生量 (t)	再利用率 再資源化率	今回発生量 (t)	累計 (t)	再利用率 再資源化率																																																											
	建設発生土	17,850	92%	1,278	42,633	100%																																																											
	建設汚泥	3,336	90%	-	2,856	100%																																																											
	<b>(2) 建設工事に伴う建設廃棄物の発生量</b> 予測時は工場棟を鉄骨造としていたが、詳細設計後、鉄筋コンクリート造等も用いた構造としたこと等から、一部の廃棄物において予測結果を上回った。																																																																
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>発生量(t)</th> <th>再資源化率</th> <th>発生量(t)</th> <th>再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td>21.2</td> <td>99.0%</td> <td>70.3</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>アスファルト・コンクリート塊</td> <td>8.1</td> <td>99.0%</td> <td>1.5</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック</td> <td>4.3</td> <td>87.6%</td> <td>64.8</td> <td>90.7%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>7.1</td> <td>97.0%</td> <td>43.5</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>石膏ボード</td> <td>6.0</td> <td>87.6%</td> <td>5.6</td> <td>89.3%</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>2.7</td> <td>87.6%</td> <td>3.4</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>2.2</td> <td>87.6%</td> <td>1.7</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">そ の 他</td> <td>ガラスくず及び陶 磁器くず</td> <td rowspan="2">5.4</td> <td>-</td> <td>23.5</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>がれき類</td> <td>5.2</td> <td>92.3%</td> </tr> <tr> <td>混合廃棄物</td> <td>31.0</td> <td>40.8%</td> <td>20.5</td> <td>92.7%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>88.0</td> <td>70.3%</td> <td>240.0</td> <td>87.6%</td> </tr> </tbody> </table>			種 類	予測結果		事後調査結果		発生量(t)	再資源化率	発生量(t)	再資源化率	コンクリート塊	21.2	99.0%	70.3	100%	アスファルト・コンクリート塊	8.1	99.0%	1.5	100%	廃プラスチック	4.3	87.6%	64.8	90.7%	木くず	7.1	97.0%	43.5	100%	石膏ボード	6.0	87.6%	5.6	89.3%	金属くず	2.7	87.6%	3.4	100%	紙くず	2.2	87.6%	1.7	100%	そ の 他	ガラスくず及び陶 磁器くず	5.4	-	23.5	9.4%	がれき類	5.2	92.3%	混合廃棄物	31.0	40.8%	20.5	92.7%	合 計	88.0	70.3%	240.0
種 類	予測結果		事後調査結果																																																														
	発生量(t)	再資源化率	発生量(t)	再資源化率																																																													
コンクリート塊	21.2	99.0%	70.3	100%																																																													
アスファルト・コンクリート塊	8.1	99.0%	1.5	100%																																																													
廃プラスチック	4.3	87.6%	64.8	90.7%																																																													
木くず	7.1	97.0%	43.5	100%																																																													
石膏ボード	6.0	87.6%	5.6	89.3%																																																													
金属くず	2.7	87.6%	3.4	100%																																																													
紙くず	2.2	87.6%	1.7	100%																																																													
そ の 他	ガラスくず及び陶 磁器くず	5.4	-	23.5	9.4%																																																												
	がれき類		5.2	92.3%																																																													
混合廃棄物	31.0	40.8%	20.5	92.7%																																																													
合 計	88.0	70.3%	240.0	87.6%																																																													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種 類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>発生量(t)</th> <th>再資源化率</th> <th>発生量(t)</th> <th>再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td>21.2</td> <td>99.0%</td> <td>70.3</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>アスファルト・コンクリート塊</td> <td>8.1</td> <td>99.0%</td> <td>1.5</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック</td> <td>4.3</td> <td>87.6%</td> <td>64.8</td> <td>90.7%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>7.1</td> <td>97.0%</td> <td>43.5</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>石膏ボード</td> <td>6.0</td> <td>87.6%</td> <td>5.6</td> <td>89.3%</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>2.7</td> <td>87.6%</td> <td>3.4</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>2.2</td> <td>87.6%</td> <td>1.7</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">そ の 他</td> <td>ガラスくず及び陶 磁器くず</td> <td rowspan="2">5.4</td> <td>-</td> <td>23.5</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>がれき類</td> <td>5.2</td> <td>92.3%</td> </tr> <tr> <td>混合廃棄物</td> <td>31.0</td> <td>40.8%</td> <td>20.5</td> <td>92.7%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>88.0</td> <td>70.3%</td> <td>240.0</td> <td>87.6%</td> </tr> </tbody> </table>			種 類	予測結果		事後調査結果		発生量(t)	再資源化率	発生量(t)	再資源化率	コンクリート塊	21.2	99.0%	70.3	100%	アスファルト・コンクリート塊	8.1	99.0%	1.5	100%	廃プラスチック	4.3	87.6%	64.8	90.7%	木くず	7.1	97.0%	43.5	100%	石膏ボード	6.0	87.6%	5.6	89.3%	金属くず	2.7	87.6%	3.4	100%	紙くず	2.2	87.6%	1.7	100%	そ の 他	ガラスくず及び陶 磁器くず	5.4	-	23.5	9.4%	がれき類	5.2	92.3%	混合廃棄物	31.0	40.8%	20.5	92.7%	合 計	88.0	70.3%	240.0	87.6%
種 類	予測結果			事後調査結果																																																													
	発生量(t)	再資源化率	発生量(t)	再資源化率																																																													
コンクリート塊	21.2	99.0%	70.3	100%																																																													
アスファルト・コンクリート塊	8.1	99.0%	1.5	100%																																																													
廃プラスチック	4.3	87.6%	64.8	90.7%																																																													
木くず	7.1	97.0%	43.5	100%																																																													
石膏ボード	6.0	87.6%	5.6	89.3%																																																													
金属くず	2.7	87.6%	3.4	100%																																																													
紙くず	2.2	87.6%	1.7	100%																																																													
そ の 他	ガラスくず及び陶 磁器くず	5.4	-	23.5	9.4%																																																												
	がれき類		5.2	92.3%																																																													
混合廃棄物	31.0	40.8%	20.5	92.7%																																																													
合 計	88.0	70.3%	240.0	87.6%																																																													
苦情の有無	無																																																																

## 事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	(仮称) 立川立飛商業施設計画		
番号・答申日・受理日	1-304-2	H25. 12. 25	H29. 12. 20
事 業 の 種 類	自動車駐車場の設置		
規 模	所 在 地：立川市泉町 935 番 1 他 計画敷地面積：94,000 m <sup>2</sup> 延 床 面 積：154,117 m <sup>2</sup> 駐 車 場 台 数：3,126 台 主 要 用 途：店舗 工 事 期 間：平成 26 年 8 月～平成 27 年 10 月 供 用 開 始：平成 27 年 12 月		
事後調査の区分	工事の完了後		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動、日影、景観、廃棄物、温室効果ガス		
調査結果の内容	<p><b>1 大気汚染</b></p> <p>(1)設備の稼働に伴う二酸化窒素の大気中における濃度            二酸化窒素の期間（7日間）平均値（0.016ppm）は、予測結果（0.01887ppm）を下回った。また、日平均値の最大値（0.023ppm）は、予測結果（0.036ppm）を下回り、参考比較した環境基準（0.04から0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下）を満足していた。</p> <p>(2)関連車両の走行に伴う二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の大気中における濃度            二酸化窒素の期間（7日間）平均値（0.015～0.017ppm）は、全ての地点で予測結果（0.01856～0.02059ppm）を下回った。また、日平均値の最大値（0.020～0.025ppm）は、全ての地点で予測結果（0.035～0.038ppm）を下回り、参考比較した環境基準を満足していた。            浮遊粒子状物質の期間（7日間）平均値（0.012mg/m<sup>3</sup>）は、全ての地点で予測結果（0.029046 mg/m<sup>3</sup>）を下回った。また、日平均値の最高値（0.020mg/m<sup>3</sup>）は、全ての地点で予測結果（0.061mg/m<sup>3</sup>）を下回り、参考比較した環境基準（0.10mg/m<sup>3</sup>以下）を下回った。</p> <p><b>2 騒音・振動</b></p> <p>(1)設備の稼働に伴う騒音            等価騒音レベル（L<sub>Aeq</sub>）の事後調査結果（昼間56dB、夜間50dB）は、予測結果（昼間47.8dB、夜間39.4dB）を上回り、環境基準（60dB又は50dB以下）と同程度又は下回った。騒音レベルの最大値（L<sub>Amax</sub>）の事後調査結果（57dB）は、予測結果（48.4dB）及び規制基準（50dB）を上回った。上回った理由としては、計画地西側の道路交通騒音等が影響していることが考えられる。</p> <p>(2)関連車両の走行に伴う騒音・振動            道路交通騒音レベル（L<sub>Aeq</sub>）の事後調査結果（昼間64～65dB、夜間59～62dB）は、1地点で予測結果を上回り、残りの地点で予測結果（昼間66～68dB、夜間59～61dB）と同程度又は下回った。また、全ての地点で環境基準（昼間70dB又は60dB以下、夜間65dB又は55dB以下）を下回った。上回った理由としては、大型車台数が予測条件より増加していたことが考えられる。            道路交通振動レベル（L<sub>10</sub>）の事後調査結果（昼間 38～52dB、夜間 38～47dB）は、1地点で予測結果を上回り、残りの地点で予測結果（昼間 43～49dB、夜間 35～49dB）と同程度又は下回った。また、全ての地点で規制基準（昼間 65dB 又は 60dB 以下、夜間 60dB 又は 55dB 以下）を下回った。上回った理由としては、舗装の状況が考えられる。</p>		

事 項	内 容																																																																																																																																																
	<p>3 日影（計画建築物の存在に伴う冬至日における日影の範囲、日影となる時刻、時間数等の日影の状況の変化の程度）</p> <p>時刻別日影の範囲は、屋上のエレベーターホール等の位置の変更により8時と9時で予測結果と異なっているが、10時から16時の日影の範囲は、予測結果とおおむね同程度であった。</p> <p>等時間日影の範囲は、予測結果とおおむね同程度であった。</p> <p>4 景観</p> <p>(1) 計画建築物の存在に伴う主要な景観構成要素の改変の程度及びその改変による地域景観の特性の変化の程度</p> <p>建築物の高さを多摩都市モノレールの駅舎高さと同程度に抑え、周辺の景観と調和するように配慮するとともに、モノレール側に平面駐車場を配置し、開放的なにぎわいのある空間を創出するなど、事後調査結果は概ね予測結果と同様であった。</p> <p>(2) 計画建築物の存在に伴う代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度</p> <p>近景の地点からは、計画建築物が出現し新たなランドマークが形成され、離れた地点からは、計画建築物の上部が視認されるがスカイラインの変化は少なく、事後調査結果は予測結果と同様であった。</p> <p>5 廃棄物（施設の供用に伴う廃棄物の種類及び発生量）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>廃棄物発生量 (t/年)</th> <th>リサイクル率</th> <th>廃棄物発生量 (t/年)</th> <th>リサイクル率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>雑芥（可燃ごみ）</td> <td>351.0</td> <td>0.0%</td> <td>316.7</td> <td>99.3%</td> </tr> <tr> <td>生ごみ</td> <td>392.1</td> <td>100.0%</td> <td>372.1</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">古紙</td> <td rowspan="4">50.4</td> <td>新聞</td> <td>1.2</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>雑誌</td> <td>17.9</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>ミックスペーパー</td> <td>30.7</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>シュレツダーくず</td> <td>4.8</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>段ボール</td> <td>539.0</td> <td>100.0%</td> <td>396.7</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>廃プラ</td> <td>227.1</td> <td>100.0%</td> <td>132.3</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>発泡スチロール</td> <td>7.8</td> <td>80.0%</td> <td>2.0</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>ビン</td> <td>17.9</td> <td>80.0%</td> <td>8.8</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>缶</td> <td>20.4</td> <td>100.0%</td> <td>9.7</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>ペットボトル</td> <td>15.2</td> <td>100.0%</td> <td>8.5</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>管球類</td> <td>1.0</td> <td>80.0%</td> <td>0.0</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>電池</td> <td>0.3</td> <td>80.0%</td> <td>0.2</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>廃油</td> <td>26.8</td> <td>100.0%</td> <td>27.1</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>特殊不燃ごみ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>4.1</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>金属ガラス</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>13.7</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1649.0</td> <td>-</td> <td>1346.5</td> <td>99.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>6 温室効果ガス（施設の供用に伴うエネルギー使用による温室効果ガスの排出量及びその削減の程度）</p> <p>予測を上回った理由として、商業施設において飲食店の占める割合が想定よりも高かったことが考えられる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">用途</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>エネルギー消費量</th> <th>温室効果ガス排出量 (t-CO<sub>2</sub>/年)</th> <th>エネルギー消費量</th> <th>温室効果ガス排出量 (t-CO<sub>2</sub>/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">電力</td> <td>商業</td> <td>13,636 kWh/年</td> <td>5,205</td> <td rowspan="2">20,341 kWh/年</td> <td rowspan="2">7,770</td> </tr> <tr> <td>駐車場</td> <td>7,689 kWh/年</td> <td>2,937</td> </tr> <tr> <td>ガス</td> <td>商業</td> <td>20,672 GJ/年</td> <td>1,045</td> <td>61,740 GJ/年</td> <td>3,124</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>9,187</td> <td>-</td> <td>10,894</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th colspan="3">予測結果</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>規模</th> <th>エネルギー消費削減量</th> <th>削減量 (t-CO<sub>2</sub>/年)</th> <th>規模</th> <th>エネルギー消費削減量</th> <th>削減量 (t-CO<sub>2</sub>/年)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太陽光発電</td> <td>30kW</td> <td>約104 GJ/年</td> <td>9</td> <td>100kW</td> <td>約346 GJ/年</td> <td>36.7</td> </tr> </tbody> </table>	種類	予測結果		事後調査結果		廃棄物発生量 (t/年)	リサイクル率	廃棄物発生量 (t/年)	リサイクル率	雑芥（可燃ごみ）	351.0	0.0%	316.7	99.3%	生ごみ	392.1	100.0%	372.1	100.0%	古紙	50.4	新聞	1.2	100.0%	雑誌	17.9	100.0%	ミックスペーパー	30.7	100.0%	シュレツダーくず	4.8	100.0%	段ボール	539.0	100.0%	396.7	100.0%	廃プラ	227.1	100.0%	132.3	100.0%	発泡スチロール	7.8	80.0%	2.0	100.0%	ビン	17.9	80.0%	8.8	100.0%	缶	20.4	100.0%	9.7	100.0%	ペットボトル	15.2	100.0%	8.5	100.0%	管球類	1.0	80.0%	0.0	100.0%	電池	0.3	80.0%	0.2	100.0%	廃油	26.8	100.0%	27.1	100.0%	特殊不燃ごみ	-	-	4.1	100.0%	金属ガラス	-	-	13.7	100.0%	計	1649.0	-	1346.5	99.8%	区分	用途	予測結果		事後調査結果		エネルギー消費量	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	エネルギー消費量	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	電力	商業	13,636 kWh/年	5,205	20,341 kWh/年	7,770	駐車場	7,689 kWh/年	2,937	ガス	商業	20,672 GJ/年	1,045	61,740 GJ/年	3,124	計	-	-	9,187	-	10,894	種類	予測結果			事後調査結果			規模	エネルギー消費削減量	削減量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	規模	エネルギー消費削減量	削減量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	太陽光発電	30kW	約104 GJ/年	9	100kW	約346 GJ/年	36.7
種類	予測結果		事後調査結果																																																																																																																																														
	廃棄物発生量 (t/年)	リサイクル率	廃棄物発生量 (t/年)	リサイクル率																																																																																																																																													
雑芥（可燃ごみ）	351.0	0.0%	316.7	99.3%																																																																																																																																													
生ごみ	392.1	100.0%	372.1	100.0%																																																																																																																																													
古紙	50.4	新聞	1.2	100.0%																																																																																																																																													
		雑誌	17.9	100.0%																																																																																																																																													
		ミックスペーパー	30.7	100.0%																																																																																																																																													
		シュレツダーくず	4.8	100.0%																																																																																																																																													
段ボール	539.0	100.0%	396.7	100.0%																																																																																																																																													
廃プラ	227.1	100.0%	132.3	100.0%																																																																																																																																													
発泡スチロール	7.8	80.0%	2.0	100.0%																																																																																																																																													
ビン	17.9	80.0%	8.8	100.0%																																																																																																																																													
缶	20.4	100.0%	9.7	100.0%																																																																																																																																													
ペットボトル	15.2	100.0%	8.5	100.0%																																																																																																																																													
管球類	1.0	80.0%	0.0	100.0%																																																																																																																																													
電池	0.3	80.0%	0.2	100.0%																																																																																																																																													
廃油	26.8	100.0%	27.1	100.0%																																																																																																																																													
特殊不燃ごみ	-	-	4.1	100.0%																																																																																																																																													
金属ガラス	-	-	13.7	100.0%																																																																																																																																													
計	1649.0	-	1346.5	99.8%																																																																																																																																													
区分	用途	予測結果		事後調査結果																																																																																																																																													
		エネルギー消費量	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	エネルギー消費量	温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> /年)																																																																																																																																												
電力	商業	13,636 kWh/年	5,205	20,341 kWh/年	7,770																																																																																																																																												
	駐車場	7,689 kWh/年	2,937																																																																																																																																														
ガス	商業	20,672 GJ/年	1,045	61,740 GJ/年	3,124																																																																																																																																												
計	-	-	9,187	-	10,894																																																																																																																																												
種類	予測結果			事後調査結果																																																																																																																																													
	規模	エネルギー消費削減量	削減量 (t-CO <sub>2</sub> /年)	規模	エネルギー消費削減量	削減量 (t-CO <sub>2</sub> /年)																																																																																																																																											
太陽光発電	30kW	約104 GJ/年	9	100kW	約346 GJ/年	36.7																																																																																																																																											
苦情の有無	無																																																																																																																																																

## 事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	東京都市計画道路環状第8号線（練馬区南田中～高松間）建設事業		
番号・答申日・受理日	2-128-1	H6.10.31	H30.1.18
事 業 の 種 類	道路の新設		
規 模	位置及び区間：[延長]約2.6km [起点]練馬区南田中二丁目 [終点]練馬区高松一丁目 道 路 規 格：第4種第1級 車 線 数：本線4車線、側道2車線 設 計 速 度：60km/時 構 造 形 式：掘割部及びトンネル部：約1.6km 高架部：約0.7km 平面部：約0.3km 計 画 交 通 量：32,850～45,200台/日（平成20年度） 32,700～44,400台/日（平成28年度） 供 用 開 始：平成18年5月（本線及び側道部の一部） 平成21年3月（側道部） 工 事 期 間：平成11年度～平成20年度		
事後調査の区分	工事の完了後その2		
調査項目・事項	大気汚染、騒音、振動、低周波空気振動		
調査結果の内容	<p><b>1 大気汚染（自動車の走行による大気汚染）</b></p> <p>二酸化窒素の期間（4季7日間）平均値（0.020～0.022ppm）は、全ての地点で予測結果（0.026～0.028ppm）を下回り、日平均値の最大値（0.042～0.051ppm）は、全ての地点で予測結果（0.052～0.054ppm）を下回るとともに、参考比較した環境基準（0.04から0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下）を満足した。</p> <p>一酸化炭素の期間（4季7日間）平均値（0.34～0.37ppm）は、全ての地点で予測結果（1.02～1.06ppm）を下回り、日平均値の最大値（0.6～0.7ppm）は、全ての地点で予測結果（2.8ppm）を下回るとともに、参考比較した環境基準（10ppm以下）を下回った。</p> <p>二酸化硫黄の期間（4季7日間）平均値（0.001ppm）は、全ての地点で予測結果（0.008～0.009ppm）を下回り、日平均値の最大値（0.002～0.003ppm）は、全ての地点で予測結果（0.020～0.021ppm）を下回るとともに、参考比較した環境基準（0.04ppm以下）を下回った。</p> <p><b>2 騒音（道路交通騒音）</b></p> <p>掘割部における道路交通騒音レベル（<math>L_{Aeq}</math>）の事後調査結果（昼間58～60dB、夜間54～55dB）は、予測結果（昼間58～60dB、夜間53～54dB）と同程度であった。</p> <p>高架部における道路交通騒音レベル（<math>L_{Aeq}</math>）の事後調査結果（昼間64dB、夜間61dB）は、予測結果（昼間62dB、夜間56dB）を夜間で上回った。</p> <p>高架部の夜間で予測結果を上回った理由としては、側道における夜間の交通量及び大型車混入率が予測適用条件より大きいこと等が原因として考えられる。</p> <p>平面部における道路交通騒音レベル（<math>L_{Aeq}</math>）の事後調査結果（昼間58dB、夜間56dB）は、予測結果（昼間56dB、夜間52dB）を夜間で上回った。</p> <p>予測結果を上回った理由としては、低騒音舗装の経年変化等が原因として考えられる。</p> <p>なお、いずれの調査地点及び時間区分においても、環境基準（昼間70dB以</p>		

事 項	内 容
調査結果の内容	<p>下、夜間65dB以下)を下回った。</p> <p><b>3 振動（道路交通振動）</b>  掘割部における道路交通振動レベル(L<sub>10</sub>)の事後調査結果(昼間30～33dB、夜間27～34 dB)は、予測結果(昼間41～47dB、夜間26～35dB)を、夜間における一地点を除いて下回った。  夜間における一地点で予測結果を上回った理由としては、側道における夜間の交通量が予測適用条件を上回っていること等が原因として考えられる。  高架部における道路交通振動レベル(L<sub>10</sub>)の事後調査結果(昼間47dB、夜間43dB)は、予測結果(昼間45dB、夜間41dB)と同程度であった。  平面部における道路交通振動レベル(L<sub>10</sub>)の事後調査結果(昼間54dB、夜間52dB)は、予測結果(昼間55dB、夜間51dB)と同程度であった。  なお、全ての調査地点及び時間区分で要請限度(昼間65～70dB以下、夜間60～65dB以下)を下回り、夜間における平面部を除いて、いずれの調査地点及び時間区分においても、環境確保条例の規制基準(昼間60～65dB以下、夜間55～60dB以下)を下回った。</p> <p><b>4 低周波空気振動(低周波音)</b>  近接車線中心線から12.5mの地点における平坦特性低周波音圧レベル(L<sub>50</sub>)の事後調査結果(65～76dB)は、予測結果(74dB～84dB)より低い範囲を示し、すべての周波数帯において評価の指標とした「がたつきを始める音圧レベル」を下回った。  また、近接車線中心線から12.5mの地点におけるG特性低周波音圧レベルの事後調査結果(75～84dB)は、ISO-7196による「人間の知覚としては認識されないとされる音圧レベル」(90dB)を下回った。</p>
苦情の有無	無



## 事後調査報告書

事 項	内 容		
事 業 名	(仮称) 八王子高尾商業施設計画		
番号・答申・受理日	2-319-1	H28. 1. 28	H30. 1. 18
事 業 の 種 類	自動車駐車場の設置		
規 模	所 在 地：八王子市東浅川町 550-1 外 敷 地 面 積：約 63,700 m <sup>2</sup> 延 床 面 積：約 80,000 m <sup>2</sup> 駐 車 場 台 数：約 1,900 台 工 事 期 間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 6 月 供用開始年月：平成 29 年 6 月		
事後調査の区分	工事の施行中		
調査項目・事項	大気汚染、騒音・振動、水循環、生物・生態系、自然との触れ合い活動の場、廃棄物		
調査結果の内容	<p><b>1 大気汚染</b></p> <p><b>(1) 建設機械の稼働に伴う大気質</b></p> <p>二酸化窒素の事後調査結果は、期間（7日間）平均値 0.012ppm、最大値 0.015ppm で、予測結果（年平均値 0.017ppm、日平均値の 98% 値 0.034ppm）を下回っていた。</p> <p>浮遊粒子状物質の事後調査結果は、期間（7日間）平均値 0.024mg/m<sup>3</sup>、最大値 0.047mg/m<sup>3</sup> で、予測結果（年平均値 0.019mg/m<sup>3</sup>、2% 除外値 0.046mg/m<sup>3</sup>）を上回っていた。予測を上回った理由は、バックグラウンド濃度とした、館町・大楽寺測定室の年平均値が予測時 0.018mg/m<sup>3</sup> に対し、事後調査時 0.026mg/m<sup>3</sup> であり、全体的に濃度が高い傾向にあったためと考える。参考までに環境基準と比較すると、二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに環境基準を満足していた。</p> <p><b>(2) 工事中車両の走行に伴う大気質</b></p> <p>二酸化窒素の事後調査結果は、期間（7日間）平均値 0.016～0.023ppm、最大値 0.020～0.029ppm で、予測結果（年平均値 0.012～0.016ppm、98% 値 0.028～0.033ppm）を年平均で上回った。予測を上回った理由は、主に工事中車両の走行時間帯以外で高濃度が観測されたためと考える。参考までに環境基準と比較すると、二酸化窒素の環境基準を満足していた。</p> <p><b>2 騒音・振動</b></p> <p><b>(1) 建設機械の稼働に伴う騒音・振動</b></p> <p>騒音レベル (L<sub>A5</sub>) の事後調査結果は、63dB で予測結果 (69dB) を下回っていた。振動レベル (L<sub>10</sub>) の事後調査結果は、43dB で予測結果 (61dB) を下回っていた。騒音レベル、振動レベルとも勧告基準を下回っていた。</p> <p><b>(2) 工事中車両の走行に伴う騒音・振動</b></p> <p>騒音レベル (L<sub>Aeq</sub>) の事後調査結果は、59～68dB で予測結果 (61～72dB) と同程度又は下回った。NO. 5 地点で調査結果 (66dB) が環境基準 (65dB) を上回ったが、評価書の将来基礎交通の予測結果 (67dB) においても上回っていた。</p> <p>振動レベル (L<sub>10</sub>) の事後調査結果は、昼間 32～50dB、夜間 30～48dB で</p>		

事 項	内 容																																																																														
	<p>予測結果（昼間 33～51dB、夜間 32～48dB）を NO. 1 及び NO. 4 で上回った。予測を上回った理由は、NO. 1 については、計画地からの工事振動の影響があったものとする。NO. 4 については、沿道環境等への影響を回避するため、工事用車両の走行はない。全ての地点において、環境確保条例の規制基準（昼間 60～65dB、夜間 55～60dB）を下回っていた。</p> <p><b>3 水循環（地下水位・流況の変化の程度）</b>  基礎工事及び地盤改良工事の深さは最大で、約 6.4m であり、地下水が存在する深さ（約 8m）より浅く、地下水・流況への影響はなかった。</p> <p><b>4 生物・生態系（陸上動物（鳥類）の変化の内容及びその程度）</b>  計画地及びその周辺において、5 目 12 科 15 種の鳥類が確認され、そのうち、重要種は東京都レッドデータブックに該当するトビとイソヒヨドリが確認された。  猛禽類が計画地を利用する行動は確認されなかったが、小鳥類は、工事中でさえも採餌に訪れていることが確認された。また、できる限り低騒音・超低騒音の建機を使用するなど、猛禽類が生息する周辺地域への影響を低減した。これらのことから、猛禽類の生息について、予測結果と同様に建設工事に伴う影響は少ないものとする。</p> <p><b>5 自然との触れ合い活動の場</b>  工事用車両の走行ルートは、評価書で示した国道 20 号、町田街道等を利用した。これらの道路は評価書時と同様に、歩車分離されており、また、道路構造に変更はなかったことから、自然との触れ合い活動の場までの利用経路への影響はなかった。</p> <p><b>6 廃棄物（建設工事に伴う建設副産物及び建設発生土）</b>  ガラス・陶磁器くず、廃プラスチック類、木くず、石膏ボードは、現場での資材組立の実施等により、発生量が予測結果より多くなった。</p> <table border="1" data-bbox="512 1238 1350 1850"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>発生量(t)</th> <th>再資源化率</th> <th>発生量(t)</th> <th>再資源化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td>280.0</td> <td>99%</td> <td>271.4</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>アスコン塊</td> <td>232.0</td> <td>99%</td> <td>105.5</td> <td>99.8%</td> </tr> <tr> <td>ガラス・陶磁器</td> <td>120.0</td> <td>99%</td> <td>273.2</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>廃プラ</td> <td>40.0</td> <td>99%</td> <td>147.2</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>64.0</td> <td>99%</td> <td>95.2</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>56.0</td> <td>99%</td> <td>106.0</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>32.0</td> <td>99%</td> <td>19.7</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>石膏ボード</td> <td>72.0</td> <td>99%</td> <td>120.2</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>120.0</td> <td>85%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>混合廃棄物</td> <td>184.0</td> <td>85%</td> <td>171.4</td> <td>90.5%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,200.0</td> <td>95%</td> <td>1,309.8</td> <td>98.7%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="512 1877 1350 1991"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th colspan="2">予測結果</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>発生量(m<sup>3</sup>)</th> <th>再利用率</th> <th>発生量(m<sup>3</sup>)</th> <th>再利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設発生土</td> <td>14,174</td> <td>100%</td> <td>約 14,000</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	種類	予測結果		事後調査結果		発生量(t)	再資源化率	発生量(t)	再資源化率	コンクリート塊	280.0	99%	271.4	100.0%	アスコン塊	232.0	99%	105.5	99.8%	ガラス・陶磁器	120.0	99%	273.2	100.0%	廃プラ	40.0	99%	147.2	100.0%	金属くず	64.0	99%	95.2	100.0%	木くず	56.0	99%	106.0	100.0%	紙くず	32.0	99%	19.7	100.0%	石膏ボード	72.0	99%	120.2	100.0%	その他	120.0	85%	—	—	混合廃棄物	184.0	85%	171.4	90.5%	合計	1,200.0	95%	1,309.8	98.7%	種類	予測結果		事後調査結果		発生量(m <sup>3</sup> )	再利用率	発生量(m <sup>3</sup> )	再利用率	建設発生土	14,174	100%	約 14,000	100%
種類	予測結果		事後調査結果																																																																												
	発生量(t)	再資源化率	発生量(t)	再資源化率																																																																											
コンクリート塊	280.0	99%	271.4	100.0%																																																																											
アスコン塊	232.0	99%	105.5	99.8%																																																																											
ガラス・陶磁器	120.0	99%	273.2	100.0%																																																																											
廃プラ	40.0	99%	147.2	100.0%																																																																											
金属くず	64.0	99%	95.2	100.0%																																																																											
木くず	56.0	99%	106.0	100.0%																																																																											
紙くず	32.0	99%	19.7	100.0%																																																																											
石膏ボード	72.0	99%	120.2	100.0%																																																																											
その他	120.0	85%	—	—																																																																											
混合廃棄物	184.0	85%	171.4	90.5%																																																																											
合計	1,200.0	95%	1,309.8	98.7%																																																																											
種類	予測結果		事後調査結果																																																																												
	発生量(m <sup>3</sup> )	再利用率	発生量(m <sup>3</sup> )	再利用率																																																																											
建設発生土	14,174	100%	約 14,000	100%																																																																											
苦 情 の 有 無	騒音に関する苦情が 5 件あり、打撃音や作業員の声等についてであり、朝礼や工程会議の場で作業員への指導等により、再発防止に努めた。																																																																														

## 事後調査報告書

事 項	内 容		
事業名	豊洲新市場建設事業		
番号・答申日・受理日	2-242-2	H23. 4. 19	H30. 1. 19
事業の種類	卸売市場の設置、自動車駐車場の設置		
規模	計 画 地：江東区豊洲六丁目地内 敷 地 面 積：約 407,000 m <sup>2</sup> 主 要 用 途：卸売市場、商業施設、駐車場 駐 車 場 台 数：約 6,300 台 工事予定期間：平成 23 年度～平成 30 年度以降 供用開始予定：平成 30 年度 10 月（新市場開場予定）		
事後調査の区分	工事の施行中その 5		
調査項目・事項	水質汚濁、地盤、水循環、生物・生態系、廃棄物		
調査結果の内容	<p><b>1 水質汚濁</b></p> <p>(1) 棧橋の建設に伴う濁水の濃度            3 地点 3 層における浮遊物質量は 2～4mg/L であり、類似事例の調査結果の最大値（予測）（19mg/L）を下回った。また、参考までに隣接する隅田川における環境基準値（50mg/L）を下回った。</p> <p>(2) 汚染土壌の掘削・処理等及び汚染地下水の処理等に伴う地下水の水質への影響の程度            土壌汚染対策工事完了後の地下水のモニタリングの結果においては、対象とした物質（ベンゼン、シアン、砒素、水銀、鉛）について分析の結果、第 7 回までは土壌汚染対策法における地下水基準の超過は確認されなかったが、第 8 回ではベンゼン 2 カ所、砒素 1 カ所の観測井において、第 9 回ではベンゼン 35 カ所、シアン 39 カ所、砒素 20 カ所の観測井において、土壌汚染対策法における地下水基準を超えた。            第 9 回地下水モニタリング調査で地下水基準を超過する井戸が急増した原因については、「豊洲市場における土壌汚染対策等に関する専門家会議」において、地下水管理システムによる揚水が稼働を開始し、帯水層下部を中心に地下水流動に変化が生じたことが影響した可能性があるなどとしている。</p> <p><b>2 地盤（地下水の揚水に伴う地盤沈下の範囲及び程度並びに掘削に伴う地盤の変形の範囲及び変化の程度）</b>            地下水位は 2 地点ともに 1～2m の幅の変動が見られたが、降雨と連動しており、工事の影響と考えられる著しい変動はみられなかった。道路面の変位については、各街区ともに著しい変動はみられなかった。</p> <p><b>3 水循環（地下水の揚水に伴う地下水の水位の変化の程度）</b>            地下水位は 2 地点ともに 1～2m の幅の変動が見られたが、降雨と連動しており、工事の影響と考えられる著しい変動はみられなかった。</p> <p><b>4 生物・生態系（棧橋の建設に伴う水生生物の生息環境の変化の内容及びその程度）</b>            3 地点 3 層における浮遊物質量は 2～4mg/L であり、類似事例の調査結果の最大値（予測）（21mg/L）を下回った。また、参考までに隣接する隅田川における環境基準値（50mg/L）を下回った。</p>		

事 項	内 容																																																																																																																														
調査結果の内容	<p data-bbox="400 230 1038 264"><b>5 廃棄物（建設発生土及び建設廃棄物の排出量）</b></p> <p data-bbox="400 268 735 302"><b>(1) 建設発生土の搬出量</b></p> <p data-bbox="887 320 1182 342" style="text-align: right;">（予測結果は工事の終了時まで）</p> <table border="1" data-bbox="432 344 1193 611"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">予測 (m<sup>3</sup>)</th> <th>実績(m<sup>3</sup>)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">土壌汚染対策工事</td> <td colspan="2">807,000</td> <td>724,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">その他</td> <td>建築工事 (土工事)</td> <td>225,000</td> <td rowspan="3">313,000</td> <td rowspan="3">※ 316,600</td> </tr> <tr> <td>土木工事 (外周通路)</td> <td>80,000</td> </tr> <tr> <td>土木工事 (緑地工事等)</td> <td>8,000</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="435 618 1086 640">※その他の工事の実績搬出量は、区分が明確でないため合算値とした。</p> <p data-bbox="400 665 1219 698"><b>(2) 建設廃棄物の排出量（土木工事及び地下部分の建築工事）</b></p> <p data-bbox="1118 723 1414 745" style="text-align: right;">（予測結果は工事の終了時まで）</p> <table border="1" data-bbox="416 748 1425 1086"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">廃棄物の種類</th> <th rowspan="2">単位</th> <th rowspan="2">予測</th> <th colspan="2">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>今回調査分</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">地中障害物 撤去</td> <td>コンクリート塊</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>約84,000</td> <td>5,629</td> <td>約106,559</td> </tr> <tr> <td>木材</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>約700</td> <td>180</td> <td>約3,239</td> </tr> <tr> <td>鋼管杭</td> <td>t</td> <td>約1,600</td> <td>337</td> <td>約2,898</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">建築工事 (杭工事等)</td> <td rowspan="2">建設汚泥</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>約49,600</td> <td>4,518</td> <td>約4,518</td> </tr> <tr> <td>m<sup>3</sup></td> <td>約12,400</td> <td>1,015</td> <td>約1,015</td> </tr> <tr> <td>土木工事</td> <td>建設汚泥</td> <td>m<sup>3</sup></td> <td>約800</td> <td>346</td> <td>約742</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="911 1093 1414 1115" style="text-align: right;">（今回調査分は平成27年度及び平成28年度の実績値）</p> <p data-bbox="400 1191 1038 1225"><b>(3) 建設廃棄物の発生量（地上部分の建築工事）</b></p> <p data-bbox="1158 1252 1453 1274" style="text-align: right;">（予測結果は工事の終了時まで）</p> <table border="1" data-bbox="419 1276 1469 1854"> <thead> <tr> <th colspan="3" rowspan="2">廃棄物の種類</th> <th>予測</th> <th colspan="3">事後調査結果</th> </tr> <tr> <th>発生量 (t)</th> <th>今回調査 分(t)</th> <th>累計(t)</th> <th>再利用・再資 源化率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">がれき類</td> <td>コンガラ</td> <td>3,982.7</td> <td>4,303.0</td> <td>5,163.2</td> <td>99.7</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,129.0</td> <td>2,843.0</td> <td>2,951.0</td> <td>96.4</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">分別 廃棄物</td> <td>ガラスくず・コンクリートく ず及び陶磁器くず</td> <td>1,410.1</td> <td>3,852.5</td> <td>4,175.8</td> <td>83.4</td> </tr> <tr> <td>廃プラスチック類</td> <td>622.7</td> <td>2,541.0</td> <td>2,715.1</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>1,102.5</td> <td>3,350.3</td> <td>3,833.8</td> <td>96.8</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>1,532.4</td> <td>2,178.8</td> <td>2,393.9</td> <td>97.2</td> </tr> <tr> <td>紙くず</td> <td>746.7</td> <td>1,009.2</td> <td>1,039.1</td> <td>92.3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10,526.1</td> <td>20,077.8</td> <td>22,272.5</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td colspan="3">建設混合廃棄物</td> <td>4,214.7</td> <td>3,871.7</td> <td>4,084.4</td> <td>75.1</td> </tr> <tr> <td colspan="3">総 計</td> <td>14,740.8</td> <td>23,949.5</td> <td>26,356.8</td> <td>89.9</td> </tr> </tbody> </table> <p data-bbox="555 1861 1453 1883" style="text-align: right;">（今回調査分は平成27年度及び平成28年度の実績値、再利用・再資源化率は累計に対する割合）</p>			予測 (m <sup>3</sup> )		実績(m <sup>3</sup> )	土壌汚染対策工事		807,000		724,000	その他	建築工事 (土工事)	225,000	313,000	※ 316,600	土木工事 (外周通路)	80,000	土木工事 (緑地工事等)	8,000		廃棄物の種類	単位	予測	事後調査結果		今回調査分	累計	地中障害物 撤去	コンクリート塊	m <sup>3</sup>	約84,000	5,629	約106,559	木材	m <sup>3</sup>	約700	180	約3,239	鋼管杭	t	約1,600	337	約2,898	建築工事 (杭工事等)	建設汚泥	m <sup>3</sup>	約49,600	4,518	約4,518	m <sup>3</sup>	約12,400	1,015	約1,015	土木工事	建設汚泥	m <sup>3</sup>	約800	346	約742	廃棄物の種類			予測	事後調査結果			発生量 (t)	今回調査 分(t)	累計(t)	再利用・再資 源化率(%)	がれき類	コンガラ	3,982.7	4,303.0	5,163.2	99.7	その他	1,129.0	2,843.0	2,951.0	96.4	分別 廃棄物	ガラスくず・コンクリートく ず及び陶磁器くず	1,410.1	3,852.5	4,175.8	83.4	廃プラスチック類	622.7	2,541.0	2,715.1	86	金属くず	1,102.5	3,350.3	3,833.8	96.8	木くず	1,532.4	2,178.8	2,393.9	97.2	紙くず	746.7	1,009.2	1,039.1	92.3	計	10,526.1	20,077.8	22,272.5	93.2	建設混合廃棄物			4,214.7	3,871.7	4,084.4	75.1	総 計			14,740.8	23,949.5	26,356.8	89.9
			予測 (m <sup>3</sup> )		実績(m <sup>3</sup> )																																																																																																																										
	土壌汚染対策工事		807,000		724,000																																																																																																																										
	その他	建築工事 (土工事)	225,000	313,000	※ 316,600																																																																																																																										
		土木工事 (外周通路)	80,000																																																																																																																												
		土木工事 (緑地工事等)	8,000																																																																																																																												
		廃棄物の種類	単位	予測	事後調査結果																																																																																																																										
					今回調査分	累計																																																																																																																									
	地中障害物 撤去	コンクリート塊	m <sup>3</sup>	約84,000	5,629	約106,559																																																																																																																									
		木材	m <sup>3</sup>	約700	180	約3,239																																																																																																																									
鋼管杭		t	約1,600	337	約2,898																																																																																																																										
建築工事 (杭工事等)	建設汚泥	m <sup>3</sup>	約49,600	4,518	約4,518																																																																																																																										
		m <sup>3</sup>	約12,400	1,015	約1,015																																																																																																																										
土木工事	建設汚泥	m <sup>3</sup>	約800	346	約742																																																																																																																										
廃棄物の種類			予測	事後調査結果																																																																																																																											
			発生量 (t)	今回調査 分(t)	累計(t)	再利用・再資 源化率(%)																																																																																																																									
がれき類	コンガラ	3,982.7	4,303.0	5,163.2	99.7																																																																																																																										
	その他	1,129.0	2,843.0	2,951.0	96.4																																																																																																																										
分別 廃棄物	ガラスくず・コンクリートく ず及び陶磁器くず	1,410.1	3,852.5	4,175.8	83.4																																																																																																																										
	廃プラスチック類	622.7	2,541.0	2,715.1	86																																																																																																																										
	金属くず	1,102.5	3,350.3	3,833.8	96.8																																																																																																																										
	木くず	1,532.4	2,178.8	2,393.9	97.2																																																																																																																										
	紙くず	746.7	1,009.2	1,039.1	92.3																																																																																																																										
	計	10,526.1	20,077.8	22,272.5	93.2																																																																																																																										
建設混合廃棄物			4,214.7	3,871.7	4,084.4	75.1																																																																																																																									
総 計			14,740.8	23,949.5	26,356.8	89.9																																																																																																																									

事 項	内 容																																														
調査結果の内容	(4) 建設廃棄物の発生量（その他土木工事）																																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="416 275 874 338">廃棄物の種類</th> <th colspan="2" data-bbox="874 275 1487 338">実績</th> </tr> <tr> <th colspan="2" data-bbox="416 338 874 427"></th> <th data-bbox="874 338 1094 427">発生量 (t)</th> <th data-bbox="1094 338 1487 427">再利用・再資源化率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="416 427 491 779" rowspan="8">分別 廃棄物</td> <td data-bbox="491 427 663 501" rowspan="2">がれき類</td> <td data-bbox="663 427 874 461">コンガラ</td> <td data-bbox="874 427 1094 461">6,213.2</td> <td data-bbox="1094 427 1487 461">100.0</td> </tr> <tr> <td data-bbox="663 461 874 501">その他</td> <td data-bbox="874 461 1094 501">3,694.7</td> <td data-bbox="1094 461 1487 501">99.2</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 501 874 595">ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず</td> <td data-bbox="874 501 1094 595">114.3</td> <td data-bbox="1094 501 1487 595">67.0</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 595 874 629">廃プラスチック類</td> <td data-bbox="874 595 1094 629">246.3</td> <td data-bbox="1094 595 1487 629">87.4</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 629 874 663">金属くず</td> <td data-bbox="874 629 1094 663">1,486.4</td> <td data-bbox="1094 629 1487 663">99.8</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 663 874 696">木くず</td> <td data-bbox="874 663 1094 696">424.5</td> <td data-bbox="1094 663 1487 696">99.8</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 696 874 730">紙くず</td> <td data-bbox="874 696 1094 730">87.9</td> <td data-bbox="1094 696 1487 730">94.1</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 730 874 779">計</td> <td data-bbox="874 730 1094 779">12,267.2</td> <td data-bbox="1094 730 1487 779">99.1</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="416 779 874 813">建設混合廃棄物</td> <td data-bbox="874 779 1094 813">618.6</td> <td data-bbox="1094 779 1487 813">89.7</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="416 813 874 853">総 計</td> <td data-bbox="874 813 1094 853">12,885.8</td> <td data-bbox="1094 813 1487 853">98.7</td> </tr> </tbody> </table>		廃棄物の種類		実績				発生量 (t)	再利用・再資源化率 (%)	分別 廃棄物	がれき類	コンガラ	6,213.2	100.0	その他	3,694.7	99.2	ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず	114.3	67.0	廃プラスチック類	246.3	87.4	金属くず	1,486.4	99.8	木くず	424.5	99.8	紙くず	87.9	94.1	計	12,267.2	99.1	建設混合廃棄物		618.6	89.7	総 計		12,885.8	98.7			
廃棄物の種類		実績																																													
		発生量 (t)	再利用・再資源化率 (%)																																												
分別 廃棄物	がれき類	コンガラ	6,213.2	100.0																																											
		その他	3,694.7	99.2																																											
	ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず	114.3	67.0																																												
	廃プラスチック類	246.3	87.4																																												
	金属くず	1,486.4	99.8																																												
	木くず	424.5	99.8																																												
	紙くず	87.9	94.1																																												
	計	12,267.2	99.1																																												
建設混合廃棄物		618.6	89.7																																												
総 計		12,885.8	98.7																																												

※工事開始は平成25年11月、実績は工事開始から平成29年3月末現在までの累計  
 ※その他土木工事に関する廃棄物は、当初の評価書において予測評価していなかったため、  
 (2)、(3)とは別表として集計し、報告する。

地上部分の建築工事は、平成 27 年度及び平成 28 年年度の主要な工事であった。地上部分の建築工事による建設廃棄物の発生量が予測値を上回った理由としては、予測では、廃棄物の発生量を「建設系混合廃棄物の組成及び原単位報告書」等に記載された原単位（全用途）に、計画建築物の延床面積を乗じることで推定しているが、卸売市場の用途の特殊性から、デザイン、構造等が大きく異なる複数の構造物が構築され、使用する建築部材等が多岐に渡ることから、端尺等の使用されない部材が出やすい状況にあったことなどが考えられる。また、再利用・再資源化率が予測結果を下回った理由としては、建築工事で発生するガラスくずのうち、汚れたガラスくずは再利用・再資源化できなかったことなどが考えられる。

なお、今後、東京都建設リサイクル推進計画で示された目標値を参考にしながら、今後、一層の発生抑制と再利用・再資源化に努めるものとしている。

| 苦情の有無 | 水質汚濁、土壌汚染について、都民や市場関係者から多くの意見があった。これに対し、「豊洲市場における土壌汚染対策等に関する専門家会議」にて対応策の検討を行って都民へ示すとともに、「市場のあり方戦略本部」にて方針を示した。  以上を踏まえ、平成 29 年 8 月 10 日に本事業の土壌汚染対策計画の変更等に関する変更届を提出し、追加対策を行うこととしている。 | | | |

## 変 更 届

事 項	内 容											
事業名	(仮称) 四谷駅前地区市街地再開発事業											
番号・答申日・受理日	1-299-2	H25. 11. 5	H29. 12. 27									
事業の種類	高層建築物の新築											
規 模	計 画 地：新宿区四谷一丁目及び本塩町の一部 事業区域面積：約 2.4ha 敷 地 面 積：約 1.8ha 延 床 面 積：約 140,000 m <sup>2</sup> 最 高 高 さ：約 145m 住 宅 戸 数：約 100 戸 主 要 用 途：業務、商業、住宅、教育、駐車場等 工事予定期間：平成 26 年度～平成 32 年度 供用開始予定：平成 32 年度											
変更内容の概略	<p><b>1 変更理由</b></p> <p>当初想定していなかった仮設店舗を計画地内に設置し、計画建物完成後に仮設店舗跡地の外構を整備することとなったため、工事予定期間を平成 31 年 8 月から平成 32 年 7 月に、供用開始予定を平成 31 年度から平成 32 年度に変更する。</p> <p><b>2 主な変更内容</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項 目</th> <th style="width: 40%;">変更後</th> <th style="width: 40%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工事予定期間</td> <td style="text-align: center;">平成 26 年 11 月～ 平成 <u>32</u> 年 <u>7</u> 月</td> <td style="text-align: center;">平成 26 年 11 月～ 平成 31 年 8 月</td> </tr> <tr> <td>供用開始予定</td> <td style="text-align: center;">平成 <u>32</u> 年度</td> <td style="text-align: center;">平成 31 年度</td> </tr> </tbody> </table>			項 目	変更後	変更前	工事予定期間	平成 26 年 11 月～ 平成 <u>32</u> 年 <u>7</u> 月	平成 26 年 11 月～ 平成 31 年 8 月	供用開始予定	平成 <u>32</u> 年度	平成 31 年度
項 目	変更後	変更前										
工事予定期間	平成 26 年 11 月～ 平成 <u>32</u> 年 <u>7</u> 月	平成 26 年 11 月～ 平成 31 年 8 月										
供用開始予定	平成 <u>32</u> 年度	平成 31 年度										
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	<p>今回の変更において工事予定期間及び供用開始予定が変わるが、工事の規模等の予測条件に大きな変更はないことから、予測・評価の見直しは行わない。</p>											

変 更 届

事 項	内 容																								
事業名	都営桐ヶ丘団地（第4期・第5期）建替事業																								
番号・答申日・受理日	2-296-2	H24.10.31	H29.12.15																						
事業の種類	住宅団地の新設																								
規 模	<p>計 画 地： 北区桐ヶ丘一、二丁目、赤羽北三丁目、赤羽台三丁目及び赤羽台四丁目の一部</p> <p>計画区域面積： 約 45.4ha</p> <p>住宅建設戸数： 19棟、約 2,000戸 [16棟、約 970戸]</p> <p>最 高 高 さ： G.L. + 約 41m</p> <p>駐 車 場 台 数： 約 200台 [約 130台]</p> <p>工事予定期間： 平成 25 年度～34 年度 [平成 32 年度～37 年度] (予定)</p> <p>供用開始予定： 平成 28 年度～34 年度 [平成 34 年度～37 年度] (予定)</p> <p>※ [ ] は、第6期事業の内容を示す。</p>																								
変更内容の概略	<p><b>1 変更理由</b></p> <p>(1) 第4・5期事業について 基本設計の実施に伴い、建物配置、形状などを変更する。また、土壌汚染対策の実施などにより、施工計画及び供用開始時期を変更する。</p> <p>(2) 第6期事業について 第4・5期事業の事業スケジュールや供用開始時期が変更になっている一方、都営住宅の耐震化率を平成 32 年度末までに 100%とする目標を設定しているが、桐ヶ丘団地の既存住棟は、耐震性が十分確保されておらず、新たな住棟と既存住棟の除却を推進することで耐震化を図る必要がある。 このような考え方の基に今後の計画を検討した結果、平成 31 年度から除却を行う予定とし、第4・5期事業と並行しながら展開していく計画とした。 第6期事業を単独では約 970 戸で対象要件以下であるが、団地全体の建替規模や公共性を踏まえ、第6期による影響も把握し、評価するものとした。</p> <p><b>2 主な変更内容</b></p> <p>(1) 第4・5期事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">項 目</th> <th style="width: 35%;">変更後</th> <th style="width: 35%;">変更前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">建築計画 計画建築物の配置 形状及び階数</td> <td>GN04 街区 北 7F(1棟) 南 8F(1棟)</td> <td>GN04 街区 北 4F、5F(2棟) 南 9F、12F(2棟)</td> </tr> <tr> <td>GN05 街区 北 8F(1棟) 南 8F(1棟)</td> <td>GN05 街区 北 7F、8F(2棟) 南 7F、9F(2棟)</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除却工事着手時期</li> <li>・ 第4期工事工程 (工事完了時期)</li> <li>・ 第5期工事工程 (工事着手時期)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4期供用開始時期</li> <li>・ 第5期供用開始時期</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 第6期事業の概略</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 40%;">住宅建設戸数</td> <td>16棟、約 970戸</td> </tr> <tr> <td>最高高さ</td> <td>G L + 約 34m</td> </tr> <tr> <td>駐車場台数</td> <td>約 130台</td> </tr> <tr> <td>工事予定期間</td> <td>平成 32 年度～平成 37 年度 (予定)</td> </tr> <tr> <td>供用開始予定</td> <td>平成 34 年度～平成 37 年度 (予定)</td> </tr> </tbody> </table>			項 目	変更後	変更前	建築計画 計画建築物の配置 形状及び階数	GN04 街区 北 7F(1棟) 南 8F(1棟)	GN04 街区 北 4F、5F(2棟) 南 9F、12F(2棟)	GN05 街区 北 8F(1棟) 南 8F(1棟)	GN05 街区 北 7F、8F(2棟) 南 7F、9F(2棟)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除却工事着手時期</li> <li>・ 第4期工事工程 (工事完了時期)</li> <li>・ 第5期工事工程 (工事着手時期)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4期供用開始時期</li> <li>・ 第5期供用開始時期</li> </ul>		住宅建設戸数	16棟、約 970戸	最高高さ	G L + 約 34m	駐車場台数	約 130台	工事予定期間	平成 32 年度～平成 37 年度 (予定)	供用開始予定	平成 34 年度～平成 37 年度 (予定)
項 目	変更後	変更前																							
建築計画 計画建築物の配置 形状及び階数	GN04 街区 北 7F(1棟) 南 8F(1棟)	GN04 街区 北 4F、5F(2棟) 南 9F、12F(2棟)																							
	GN05 街区 北 8F(1棟) 南 8F(1棟)	GN05 街区 北 7F、8F(2棟) 南 7F、9F(2棟)																							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 除却工事着手時期</li> <li>・ 第4期工事工程 (工事完了時期)</li> <li>・ 第5期工事工程 (工事着手時期)</li> </ul>																								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第4期供用開始時期</li> <li>・ 第5期供用開始時期</li> </ul>																								
住宅建設戸数	16棟、約 970戸																								
最高高さ	G L + 約 34m																								
駐車場台数	約 130台																								
工事予定期間	平成 32 年度～平成 37 年度 (予定)																								
供用開始予定	平成 34 年度～平成 37 年度 (予定)																								
環境影響評価項目の再評価(見直し)結果	<p>環境影響評価項目のうち、大気汚染、騒音・振動、土壌汚染、日影、電波障害、景観、史跡・文化財、自然との触れ合い活動の場及び廃棄物について予測・評価の見直しを行った。全ての項目について、評価の指標を満足することから、評価の結論は変わらない。</p>																								

東京都環境影響評価条例第 90 条に基づく報告（事業計画の変更）

事 項	内 容		
事 業 名	都市高速道路外郭環状線（世田谷区宇奈根～練馬区大泉町間）事業		
番号・答申日・受理日	法 5	H18. 11. 14	H29. 12. 22
事 業 の 種 類	都市高速道路の新設		
規 模	<p>事 業 区 間：起点 世田谷区宇奈根三丁目            終点 練馬区大泉町四丁目</p> <p>道 路 延 長：約 16 k m</p> <p>道 路 規 格：第 2 種第 1 級（自動車専用道路）</p> <p>車 線 数：往復 6 車線</p> <p>設 計 速 度：80km/時（本線部）</p> <p>工 事 予 定 期 間：平成 23 年度～平成 32 年度（予定）</p> <p>供 用 開 始：平成 32 年度（予定）</p>		
変 更 内 容 の 概 略	<p><b>1 主な変更理由</b></p> <p>大泉ジャンクション・目白通りインターチェンジのトンネルについて当初予定していた開削工法では施工上支障が生じたため一部を非開削工法に構造変更をする。</p> <p><b>2 変更内容</b></p> <p>本線シールドトンネルとランプシールドトンネルの分岐・合流する部分において開削工法を行う予定であった一部を非開削工法(地中切り開き及びシールドトンネル)に構造変更することにより施工方法の見直しをする。</p>		
環 境 影 響 評 価 項 目 の 再 評 価 ( 見 直 し ) 結 果	<p>今回の地中拡幅部の構造及び施工計画の変更に伴い、大気質、騒音、振動及び廃棄物等について、予測・評価の見直しを行ったが、変更前と評価の結論は変わらない。</p>		